

指定管理者施設の管理運営状況評価(モニタリング)シート(令和元年度事業分)

1 施設の概要

施設名	山梨県立あけぼの医療福祉センター成人寮	所管課	福祉保健部 障害福祉課
所在地	韮崎市旭町上條南割3251-1	設置年月日 (改築年月日等)	昭和48年4月1日
管理方式	社会福祉法人山梨県障害者援護協会		
設置根拠 (法律、条例等)	山梨県立障害者支援施設設置及び管理条例		
設置目的	身体障害者に必要な指導及び訓練を行い、自立した日常生活や社会参加を図るため。		
主な施設内容 (定員等)	<ul style="list-style-type: none"> ○敷地面積:9,060㎡ ○建築延面積:3,194.32㎡ ○建物の構造:鉄筋コンクリート造平屋建、鉄骨造平屋建2棟 ○施設の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由者更生施設棟(鉄筋コンクリート造平屋建) 3,002.29㎡ ・温室(鉄骨造平屋建) 110.25㎡ ・農作業保管庫・陶芸室(鉄骨造平屋建) 81.78㎡ ○各障害福祉サービスの定員 <ul style="list-style-type: none"> ・生活介護:45人 ・短期入所:15人 ・自立訓練(機能訓練):15人 ・施設入所支援:40人 		
主な業務内容	<p>(1)施設等の維持保全に関する業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設及び設備器具の維持保全に関する業務を行う。 <p>(2)利用者に対する障害福祉サービス業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活介護、短期入所、自立訓練(機能訓練)及び施設入所支援に係る業務を行う。 		

2 類似施設・近隣施設

名称 施設内容 利用状況等	<ul style="list-style-type: none"> ・あゆみの家:自立訓練(通所 22人、夜間 20人)、短期入所(2人) ・梨の実寮:生活介護(52人)、就労移行支援(6人)、就労継続支援B型(12人)、施設入所支援(50人)、短期入所(6人) ・あさひワークホーム:生活介護(38人)、就労移行支援(8人)、就労継続支援B型(34人)、施設入所支援(40人)、短期入所(5人) ・育精福祉センター成人寮:生活介護(105人)、短期入所(9人)、施設入所支援(90人)
------------------------------	--

3 利用状況

単位:人、%

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度 (目標値)
利用者数	生活介護	43	42	42	
	短期入所	20	18	15	
	自立訓練(機能訓練)	10	8	12	
	施設入所支援	37	37	39	
	利用者数合計	110	105	108	
	目標値	115	115	115	115
	目標値設定の考え方及びその理由	定員を目標値とする。			
	対平成29年度比		95.5%	97.7%	
利用率		95.7%	91.3%	93.5%	

4 指定管理業務の収支状況

単位:円、%

		平成30年度	令和元年度 (計画値)	令和元年度 (実績値)	令和2年度 (計画値)
収入	施設利用料	207,711,023	206,970,000	206,006,970	207,730,000
	指定管理者委託料				
	その他	677,596	7,130,000	5,932,018	450,000
	収入合計(A)	208,388,619	214,100,000	211,938,988	208,180,000
支出	人件費	138,606,119	147,600,000	143,479,040	142,670,000
	県への納付金				
	管理運営費	63,597,154	66,500,000	64,600,854	65,510,000
	うち外部委託費(B)	4,462,694	5,050,000	4,762,123	5,150,000
	支出合計(C)	202,203,273	214,100,000	208,079,894	208,180,000
収支差額(A-C)		6,185,346		3,859,094	
外部委託比率(B÷C)		2.2%	2.4%	2.3%	2.5%
利用者一人当たりの経費		1,984,653.5	1,861,739.1	1,971,525.5	1,810,260.9

5 利用者満足度(アンケート様式は別添のとおり)

実施方法等	実施時期:令和2年3月 実施方法:利用者個別に行い、記述可能な方は本人の記述により、記述困難な方は面接による聞き取りにて実施。 回答数:54(生活介護・自立訓練利用者56名:1名入院、1名日中活動長期欠席)
--------------	---

単位:%

調査項目	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満
施設設備	78.0%	15.0%	7.0%	
プライバシーや個人情報の保護	83.0%	13.0%	4.0%	
食事の内容	50.0%	32.0%	9.0%	9.0%
職員の対応の仕方	70.0%	24.0%	4.0%	2.0%
支援内容(訓練・活動以外)	76.0%	20.0%	4.0%	
訓練・活動内容	72.0%	17.0%	7.0%	4.0%
施設全般の満足度	90.0%	6.0%	3.0%	1.0%

利用者の意見	<p>【施設設備】</p> <p>①空調設備が悪く快適とは言えない。</p> <p>【プライバシーや個人情報の保護】</p> <p>②居室に無断で入ってくる利用者がいて困る。</p> <p>【食事の内容】</p> <p>③果物や肉類を増やしてほしい。</p> <p>④もっと美味しいものを食べたい。</p> <p>【職員の対応の仕方】</p> <p>⑤もう少し細かいところに気づいて、いろいろやってもらいたい。</p> <p>⑥子供のような言葉遣いでなく、大人同士の会話(言葉遣い)をしてほしい。</p> <p>【訓練活動内容】</p> <p>⑦気に入る内容がない。</p> <p>⑧個人の活動なら良いが集団で他者と絡むのは苦手である。</p>
利用者の意見への対応	<p>【施設設備】</p> <p>①空調設備は定期的に清掃を実施した。不調の場合は業者に修理を依頼した。</p> <p>【プライバシーや個人情報の保護】</p> <p>②個々の障害にもよるが、間違えてしまう方もいるため、ドアにしるし等をして自分の部屋であることが分かるように対応した。</p> <p>【食事の内容】</p> <p>③年4回給食提供業者、施設職員、利用者の代表を交えて給食委員会を開催するほか、給食に対するアンケートを実施し、委託業者との窓口であるあけぼの医療福祉センターに報告をした。</p> <p>④月1回スペシャルメニューとして季節に合った趣向を凝らした食事を提供した。</p> <p>【職員の対応の仕方】</p> <p>⑤⑥満足度調査や接遇向上委員会を通し、利用者に安心して利用していただけるよう接遇向上につなげた。</p> <p>【訓練活動内容】</p> <p>⑦創作・カラオケ等多彩なプログラムを企画、ドライブや施設見学等の外出支援を実施した。また外部講師による陶芸・園芸療法などを実施した。</p> <p>⑧個別支援の時間を設け、外食や買い物支援等を実施した。</p>

6 評価結果

	指定管理者の自己評価	施設所管課の評価
維持管理業務	<p>サービスの提供が円滑に行われるよう建物・施設周辺を管理担当者である業務員が主体となって、施設設備の保守管理について定期的実施した。</p> <p>建物周辺の除草作業、樹木剪定、屋上排水溝清掃等を職員総出で行い、環境整備に取り組んだ。</p> <p>また、利用者が快適な生活を送れるよう、随時網戸の補修や床のワックスがけ、空調機のフィルター清掃などを行った。</p>	<p>定期的な保守管理や清掃作業により、利用者の安全や利便性に留意し、適切な管理が行われている。</p> <p>保守点検及び日常業務の中で異常が確認された場合は、早急に対応すること。</p>
運営業務	<p>利用契約の際、利用者及び家族には当該事業の基本方針及び支援内容を分かりやすく説明するとともに、個々の目標達成に向けた個別支援計画に基づいたサービスを提供した。</p> <p>年2回利用者満足度調査を実施し、その結果を基に検証し改善につなげていった。</p> <p>接遇向上委員会、虐待防止委員会を通じて、安全・安心して利用していただける関係性の構築に取り組んだ。また、地元老人会との交流会など地域における公益的な取組みを開始した。</p>	<p>個別支援計画等に基づき、適切なサービスが提供されている。</p> <p>引き続き利用者や家族等の意見を取り入れながら、個々の特性に鑑みた個別支援計画を策定し、質の高いサービスの提供のために努力されたい。</p>
利用状況	<p>年度当初は利用者の少なかった自立訓練事業は、理学療法士の常勤化や先進のリハビリ機器の導入による訓練メニューの充実により利用者は定員近くまで増加した。</p> <p>生活介護、施設入所は高い利用率を保っているが、短期入所は、長期の利用制限が本格実施された影響で減少となった。</p> <p>HPやSNSを活用した広報を積極的に行う中で、施設利用の問い合わせや利用契約に結び付くケースが増加しており、引き続き利用者確保に努めていく。</p>	<p>支援体制やリハビリ機器の充実により、利用の拡大が図られている。</p> <p>引き続き、支援体制の充実を図るとともに、サービス内容の効果的な発信に努め、関係機関とも緊密に連携するなかで、利用者の増加を図られたい。</p>
収支状況	<p>収入については、短期入所の減収があったものの年度後半からの自立訓練事業の利用者増により、減収を最小限に抑えた。</p> <p>支出については、社会福祉充実計画に係る介護支援機器や施設車両の購入並びに退職金手当の支給などにより増額傾向になったが、損害保険会社の見直しなど削減にも取り組んだ。</p>	<p>支出の増額があったものの、収入の確保にも努めるなかで、引き続き安定した施設経営がなされている。今後も、施設・設備の計画的な修繕及び経費の節減に努めるとともに利用料収入の確保に努力されたい。</p>
自主事業	<p>自主事業である市町村が行う日中一時支援事業の提供について、通所の生活介護事業で同じサービスを提供でき、慣れてきた場合、短期入所事業も利用できることから、今年度の利用実績者はいなかった。</p>	<p>市町村と連携を図り、事業計画書に基づいて、積極的に日中一時支援事業の提供に努めること。</p>

<p>利用者満足度</p>	<p>施設全般の満足度で、96%の利用者から「満足」「どちらかと言えば満足」との評価を得た。 利用者の支援ニーズが複雑化、多様化する中、利用者の個々の状況に応じた対応に努めながら、活動に参加できない利用者に対し、短時間でも活動に参加しようと声掛けを行ってきた。様々な利用者ニーズに応えるため、支援員の創意工夫と外部講師の活用によりバラエティーに富んだメニューを提供し、満足度の維持・向上に努めた。</p>	<p>全体として利用者の満足度が向上しており、概ね良好な結果であった。食事については、引き続き不満を感じる方が多いことから、利用者の意向も取り入れながら、更なる向上を図りたい。</p>
<p>運営目標の達成状況</p>	<p>利用者の高齢化や障害の重度化が進む中で、転倒や嚥下の問題が顕在化していることから、予防体操や介護機器を導入し、安全・安心な生活が送れるように取り組んだ。また、日頃の感染症対策に加え、年度末の新型コロナウイルスの感染拡大防止に当たっては、国や県の指導を踏まえ、利用者・職員の健康チェックの強化、活動内容の見直し、面会や外出等の制限など予防対策に万全を講じた。</p> <p>個別支援計画に基づいた生活支援・自立訓練などを行うとともに、定期的な点検・評価を実施し、利用者ニーズに合った質の高いきめ細かいサービスを提供した。</p> <p>支援環境や訓練環境の安全性と快適性、さらにサービス提供が円滑に行われるよう、建物・設備の専門業者による法定点検はもとより、職員による日常の点検・保守業務を計画的に実施した。</p> <p>関係機関との連携を強化するとともに、機能訓練に係る職員体制及びリハビリ機器の導入により訓練メニューの充実に取り組み、利用者確保を図った。 また、地元老人会との交流会などの地域における公益的な取組を開始したところであり、地域のニーズに応えるサービス提供や施設の存立意義を発信し、施設利用に結び付けていく。</p>	
<p>施設所管課による総合的な評価及び指導事項</p>	<p>施設の老朽化に伴う維持管理についてはその都度改善しており、施設管理・運営業務等について、条例、協定等に基づき適正に履行した。 質の高いサービスを提供しつつ効率的に運営されている。 利用者ニーズの把握に努め、利用者サービスの向上に努力した。</p> <p>施設障害サービスを提供した際は、サービスの種類ごとに必要な事項を記録するとされているが、提供日等の記録について不十分な点があったため、提供日、内容、その他必要な事項を適切に記録すること。</p>	
<p>施設所管課の指導事項に対する指定管理者の対応状況</p>	<p>条例、協定等に基づき適正な執行を行い、施設・設備については利用者の安全や利便性に留意し、随時、修繕を行う。 サービス向上に努めるとともに、効率的な施設経営を行い、安定した経営の継続を目指す。 利用者満足度調査の結果を踏まえ、利用者個々のニーズに対応するよう努力する。</p> <p>令和2年2月13日からサービス提供日毎に内容、その他必要な事項を記入するよう改善した。</p>	

7 管理体制(組織図)

平成31年4月1日現在

